

物理学科を覗く

充実した学習環境

2つの学生用ラウンジは、自習、交流の他に、自主ゼミにも使われる。理学部図書館は22:00まで開館している(長期休業中は20:30まで)。理学部1号館は、食堂、書籍部、購買部、コンビニ、御殿下へのアクセスが良く便利。御殿下で運動しリフレッシュする学生もいる。



ラウンジで交流や議論をする学生たち。



Lounge



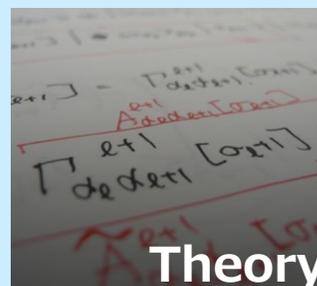
Library

きれいな理学部図書館。

充実した研究環境

世界的に有名な研究者から直接指導を受けることができる。講義で研究の最前線の話も聞ける。実験設備も充実しており、学部生の実験で理研の加速器を使わせてもらえる。

素粒子、宇宙、物性、光学から生物物理まで、研究分野は多岐にわたる。



Theory



Experiment

左から、物性理論、素粒子実験、宇宙実験。

充実したイベント

Newton祭、理学部交歓会、ビアパーティーなど交流の場がたくさん。Newtonの誕生日を祝うNewton祭は、今年で138回目を迎える伝統行事。五月祭では、学部生が中心となり例年大々的な学術企画を行っている。



Newton Fes.

Newton祭の集合写真。



May Fes.

五月祭の看板とポスター展示の様子。

物理学科のデータ

ノーベル物理学賞

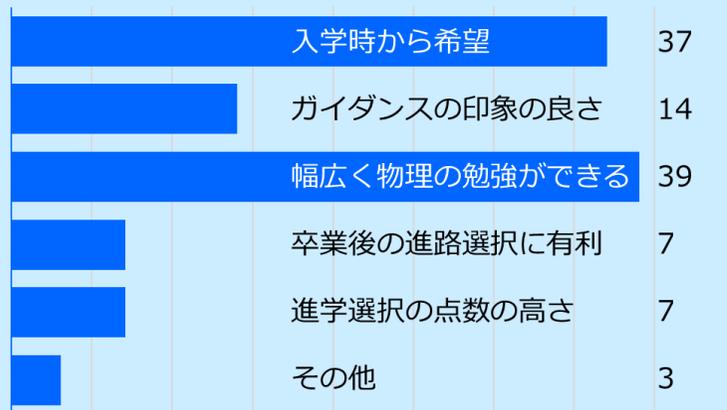
東大理学部物理学科は、
江崎玲於奈(1973:トンネル効果)
小柴昌俊(2002:天体物理学)
南部陽一郎(2008:自発的対称性の破れ)
梶田隆章(2015:ニュートリノ振動)
と過去4人の受賞者を輩出している。



ノーベル物理学賞受賞者。左から、江崎先生、小柴先生、南部先生、梶田先生。

進学選択での人気

進学選択の底点が高いことで有名な物理学科。人気が高い分、優秀な学生が多く集まっている。入学時から物理学科への進学を希望していた生徒も多くいるようだ。



2017年度内定者アンケート

学生数とカリキュラム

学部は1学年70人(修士課程は130人ほど)。女子学生は例年数人程度。講義、演習、実験が必修となっている。4年生では2つの研究室に半年ずつ所属し、理論または実験の研究を行う。



※講義と物理学実験は一例